

# サントリー vs. アサヒ 「ノンアルコール裁判」 勝つのはどっち？

「ノンアルコールビール市場は、10年連続で売り上げが減少しているビール類とは対照的に、販売量が急増している。ウチの『オールフリー』も昨年720万ケースを売り、シェアトップを獲得しました。だからこそ、『ドライゼロ』で630万ケースを売った2位のアサヒビールは、今叩いておかないといけない」（サントリーHD社員）

3月10日、ノンアルコールビールを巡り、サントリーHDとアサヒビールの間で前代未聞の裁判が始まった。サントリーHDが、アサヒビールの「ドライゼロ」に対し、自社が持つノンアルコール飲料の特許権を侵害し

たと提訴したのだ。

だが一方で、アサヒビールも黙っていない。

「あっちの言い分は、到底受け入れられない。サントリーは、糖質やエキス分量などを細かく定めた特許を盾にケチをつけてきた。そもそも、飲料の配合について特許をとること自体がおかしいでしょう。ウチとしては、断固反論していきます」（アサヒビール社員）

この訴訟では、ノンアルコールビールを軸に両社の思惑が交錯している。「酒税が課されないノンアルコールビールはメーカーにとって『おいしい』商品。消費者のアルコール離れが進む中で、今後主力商品となるだけに、

ライバルの動向に敏感になつてくるのです」（流通評論家の鈴木孝之氏）

さらに今回の騒動には、サントリーHDの新浪剛史社長の狙いも隠されているという。

「新浪さんは昨年10月の社長就任以来、社内外に対しサントリーの新たな顔としてアピールする機会を窺ってきた。この裁判を起こすことで存在感を示せるし、ノンアルコールビールのPRにもなると踏んだのでしょうか」（全国紙経済部デスク）

今後の裁判について、知財問題に詳しい本杉明義弁護士は、こう語る。

「この裁判は、特許権の有効性をはっきりさせる以上に、競合他社を牽制するとうビジネス上の思惑があります。それ故に、判決までいかずにどこかの時点で和解もありうるかもしれません」  
注目が集まるノンアルコール裁判。その結末はどうなるのか。

## 仮

想商店街ヤフー ショッピングに 出店している家 電通販サイト「まいど」の不正が判明、3月6日に閉店した。

自社商品の架空注文で ヤフーからポイントをと 正取得していた というが、「ポイント制度を利用した架空循環取引」との構図はいかにもネット ショッピングの時代を映す。

犯罪を吐露した社員のボヤキが、無料通話アプリのLINEに残されているのも現代的だ。

「会社粉飾&ポイント詐欺はどう思う?」。こう先輩に呼びかけられた社員が、「できればやりたくなかったです」と答えると、先輩は「ただのポイント泥棒して商品また買

## 事情通

うのがやばいと思うよ」と嘆いた。

まいど事件を連続して追及している産経新聞によれば、ポイント不正取得でヤフーの詐欺被害額は年間1億円前後に達し、粉飾決算で融資を受けやすくしている。金融機関を被害者とした詐欺事件も成立する。

また、「まいど」を運営する東京・大田区の(株)ディーケインは、「表」の金融機関から約50億円の融資を受けているが、「急ぎのカネは神奈川方面の高利金融から借り、融資の一部が投資に回っていた」(事情通)という情報もある。ポイント詐欺に粉飾決算に投融资の解明……警視庁が捜査着手すれば忙しい事件になりそうだ。